

子育て支援の効果に関する保育者の認識 — 親への子育て支援効果について —

浜崎 隆司¹・荒木 美代子²
田村 隆宏³・岩崎 美智子³

Awareness of Child-Care Workers Regarding the Effects of Child-Raising Support - Effects of Child-Raising Support on Parents -

Takashi Hamazaki¹, Miyoko Araki²,
Takahiro Tamura³ and Michiko Iwasaki³

This research examined the conditions of child-raising support activities at each of a number of kindergartens and nursery schools. Through the child-care workers, we investigated the differing awareness regarding the effects of these support activities on the parents. The result showed that there was greater awareness of the effects on the parents at kindergartens and nursery schools that were engaged in more actual activities for opening the facilities, providing child-care services to preschool-aged children, providing child-raising consultations, and similar activities. The apparent differences in awareness among different kindergartens and nursery schools regarding the effects of opening the facilities, providing child-care services to preschool-aged children, short-term child care, extended child care, and other child-raising support activities are differences in the basic philosophy underlying each facility. Changing in child-raising stress and issues that accompany the higher ages of the children caused these differences.

Key Words: Child-raising support, kindergarten, nursery school, caregiver

問 題

子育てに不安や悩みを抱える親や家庭の増加と少子化の進行等を背景に、地域における子育て支援センターとしての幼稚園・保育所に対する期待はいつそう高まっている。特に、社会問題となっている児童虐待や

育児不安等の専門的育児相談窓口の開設も含めたいっそうの子育て支援の充実が求められている。現在、幼稚園・保育所では、園舎・園庭開放、子育てサービス、延長保育等の子育て支援が実施されているが、その形態や内容については様々である。例えば、徳島県において、地域子育て支援センター事業を実施している保育所では、育児相談に応じる、子育て情報の提供、子育てサークル・子育てボランティアの育成、支援等が行われている。現在、県内17の保育所で子育て支援の

1 鳴門教育大学幼年発達支援講座教授

2 鳴門教育大学大学院学校教育研究科研究生

3 鳴門教育大学幼年発達支援講座助教授

事業が行われているが、職員数、施設等の規模の違いにより、支援事業の内容は様々である。

徳島県内の保育所・幼稚園を対象とした浜崎、田村、岩崎、佐々木、橋川、塩路(2002)は、現実に実施されている子育て支援について調査し、「園舎・園庭の開放」の支援策が最も多く行われていること、つづいて「育児相談」、「未就園児への保育サービス」「延長保育」等が実施されていることを明らかにした。同時に、子育て支援が親や子ども、保育者に与える効果についても調査がなされており、「親同士、子ども同士の交流の促進」の効果が確認された。

しかし、幼稚園、保育所による子育て支援策は様々であり、個々の支援策に対するその効果については十分検討がなされていない。そこで、本研究では、子育て支援の現状の分析を行うとともに、幼稚園・保育所に所属する保育者の、各子育て支援の親への効果に関する認識の違いを検討することを目的とした。

本研究の調査対象とする徳島県では、地域によっては年少児、年中児を保育所に通わせ、年長児を幼稚園に通わすという慣習がある。このような2元的形態はその支援の方法をも異なることが予測されるために、子育て支援の親への効果に対する認識を、幼稚園・保育所に分けて比較を行うこととした。子育て支援活動に視座を置いた時、保育士・教諭の親への効果の認識は、保育者から見た、養育者に対する親としての在り方への認識の違いと理解できよう。つまり、養育者に対する期待や、改善された点、不足していた、と感じていた点が浮かび上がってくると考えられる。

また、保育者が所属する幼稚園・保育所が、子育て支援を実施しているか否かによって、親への子育て支援の影響についての認識も異なると予測される。もし、認識の違いが見られるのであれば、この認識の違いは、実際に活動を通して保育士・幼稚園教諭が認識する、養育者に必要とされる支援であろうし、親への効果の認識を通して、各子育て支援の機能が詳細に見ることができると考えられる。そこで、子育て支援の実施の有無による保育者の認識の差異についても、同時に比較検討を行うこととする。

方法

調査対象者 調査対象者は徳島県鳴門市の公立・私立の幼稚園教諭と保育所保育士であった。人数は幼稚園教諭が50名であり、保育所保育士が114名であった。
子育て支援活動の効果に関するアンケート調査 幼稚園教諭や保育所保育士が所属する園での各子育て支援の活動状況と、各子育て支援活動の親への効果に関して、どのように認識しているのかを明らかにするために、アンケートを作成した。アンケートの内容は、園

舎・園庭の解放、育児相談、子育てサークル、子育て情報の提供、未就学児への保育サービス、一時保育、延長保育、夜間保育の8つの子育て支援活動に関して、各活動が親に対してどのような影響があると思うかについて問う尺度評定を求めるものであった。具体的には、①親同士の交流を促進する、②親の子育ての悩みを解消する、③親の育児能力・技術が向上する、④親子の遊びやグループ活動が活発になる、⑤親の自立を積極的に支える、⑥親が子どもの発達を広い視野からとらえられるようになる、の6項目について各子育て支援活動が影響するかどうかを1(全く影響しない)、2(あまり影響しない)、3(どちらともいえない)、4(ある程度は影響する)、5(大いに影響する)、の5段階評定で回答を求めるものであった。アンケートで扱った8つの子育て支援活動と親に対する影響に関する6つの項目に関しては、幼児教育、幼児心理学、児童福祉学の研究を専門とする大学教官、並びに現職の幼稚園教諭、保育所保育士でもある大学院生が挙げたものから抽出したものである。

調査手続き アンケート用紙と返信用封筒を鳴門市の公立・私立の幼稚園、保育所に対して、在職保育者の人数分を郵送し、個別に返送してもらうことにより回収した。404名に配布した内、回答者数は164名(幼稚園教諭50名、保育所保育士114名)であり、回答率は幼稚園教諭、43.9%、保育所保育士、39.3%であった。

結果

1: 子育て支援活動状況

子育て支援活動に関わっている保育数について集計した。全体では、延長保育(活動数:108/66%)が最も多く、次いで園舎・園庭の開放(107/65%)、育児相談(91/56%)、未就学児への育児サービス(54/33%)、子育てサークルなどの支援(36/22%)の順であった。

幼稚園・保育所別に見てみると(Table 1)、幼稚園においては園舎・園庭の開放(38/76%)が最も多く行われており、次いで延長保育(27/54%)、未就学児への育児サービス(18/36%)、子育てサークルなどの支援(6/12%)、育児相談(5/10%)の順で行われていた。一方、

Table 1: 幼稚園・保育園別、子育て支援活動状況

	幼稚園		保育園	
	度数	%	度数	%
園舎・園庭の開放	38	76	69	61
育児相談	5	10	86	75
子育てサークル	6	12	30	26
子育て情報の提供	2	4	31	27
未就園児への保育サービス	18	36	36	32
一時保育	1	2	32	28
延長保育	27	54	81	71
夜間保育	0	0	0	0
その他	4	8	15	13

Table 2 各項目の平均値と標準偏差

カテゴリ	園舎・園庭の開放				育児相談				子育てサークルなどの支援				
	幼稚園		保育園		幼稚園		保育園		幼稚園		保育園		
	有	無	有	無	有	無	有	無	有	無	有	無	
項目													
親同士の交流を促進する	4.66 (1.19)	4.60 (.90)	3.97 (.65)	4.00 (.50)	3.00 (1.00)	2.85 (1.33)	2.91 (1.24)	2.96 (1.43)	4.67 (.52)	4.67 (.65)	4.74 (.53)	4.78 (.45)	
親の子育ての悩みを解消する	3.68 (.77)	2.89 (1.05)	3.42 (1.19)	3.42 (.98)	4.80 (.45)	4.67 (.48)	4.76 (.51)	4.68 (.56)	4.20 (.84)	4.34 (.83)	4.48 (.51)	4.42 (.62)	
親の育児能力・技術が向上する	3.12 (.89)	2.55 (1.13)	3.04 (1.17)	2.79 (.91)	4.40 (.89)	4.30 (.68)	4.18 (.74)	4.12 (.83)	4.40 (.55)	4.23 (.62)	4.33 (.62)	4.01 (.72)	
親の遊びやグループ活動が活発になる	4.06 (.91)	4.00 (.71)	4.08 (.86)	4.10 (.82)	3.40 (.89)	3.26 (.86)	3.15 (.90)	2.76 (1.05)	4.40 (.55)	4.42 (.79)	4.74 (.45)	4.49 (.65)	
親の自立を積極的に支える	2.68 (1.01)	1.78 (.97)	2.88 (1.17)	2.34 (1.02)	4.40 (.55)	3.83 (.98)	3.94 (.94)	3.64 (1.11)	3.83 (.41)	3.67 (1.14)	4.26 (.90)	3.60 (1.05)	
親が子どもの発達を広い視野から捉えられるようになる	3.66 (1.06)	2.56 (1.01)	3.78 (1.01)	3.50 (1.03)	4.80 (.45)	4.16 (.65)	4.22 (.80)	4.44 (.65)	3.83 (.41)	4.24 (.78)	4.52 (.64)	4.26 (.85)	

カテゴリ	子育て情報の提供				未就学児への保育サポート				一時保育				
	幼稚園		保育園		幼稚園		保育園		幼稚園		保育園		
	有	無	有	無	有	無	有	無	有	無	有	無	
項目													
親同士の交流を促進する	2.50 (.71)	3.51 (1.12)	3.89 (1.07)	3.69 (.96)	4.50 (.65)	3.65 (1.40)	3.97 (1.15)	3.26 (1.24)	1.00 (0)	2.00 (.79)	3.15 (1.17)	2.34 (1.19)	
親の子育ての悩みを解消する	4.50 (.71)	4.14 (.77)	4.29 (.60)	4.25 (.73)	4.00 (.78)	3.57 (1.16)	3.74 (.74)	3.42 (1.05)	4.00 (0)	3.03 (1.12)	3.48 (1.09)	3.38 (1.13)	
親の育児能力・技術が向上する	4.50 (.71)	3.94 (.75)	4.14 (.59)	3.96 (.90)	3.57 (.76)	3.18 (1.18)	3.23 (.73)	3.17 (.89)	2.00 (0)	2.06 (.87)	2.74 (.90)	2.26 (1.03)	
親の遊びやグループ活動が活発になる	3.50 (.71)	3.47 (.97)	3.89 (.96)	3.63 (.88)	4.14 (.95)	3.30 (1.15)	3.66 (.87)	3.41 (.89)	3.00 (0)	2.00 (.83)	2.74 (1.20)	2.38 (1.04)	
親の自立を積極的に支える	4.50 (.71)	3.73 (1.02)	3.82 (.98)	3.55 (1.05)	3.40 (1.12)	3.44 (1.08)	3.76 (.82)	3.31 (.099)	4.00 (0)	3.13 (1.32)	3.70 (1.10)	3.53 (1.08)	
親が子どもの発達を広い視野から捉えられるようになる	4.50 (.71)	4.03 (.64)	4.07 (.77)	4.08 (.86)	4.27 (.59)	3.54 (1.22)	3.94 (.87)	3.58 (.92)	1.00 (0)	2.03 (.85)	3.26 (1.40)	2.78 (1.14)	

カテゴリ	延長保育				夜間保育				
	幼稚園		保育園		幼稚園		保育園		
	有	無	有	無	有	無	有	無	
項目									
親同士の交流を促進する	1.82 (.59)	1.69 (.79)	2.13 (1.12)	2.12 (1.11)		1.64 (.72)		1.79 (.93)	
親の子育ての悩みを解消する	3.05 (1.28)	2.31 (1.08)	3.09 (1.20)	2.85 (1.29)		2.74 (1.29)		2.70 (1.27)	
親の育児能力・技術が向上する	1.86 (.94)	2.00 (.85)	2.21 (.88)	1.58 (.76)		1.74 (.78)		1.81 (.89)	
親の遊びやグループ活動が活発になる	1.73 (.83)	1.88 (.89)	2.19 (.95)	1.65 (.75)		1.69 (.79)		1.73 (.80)	
親の自立を積極的に支える	3.33 (1.37)	3.19 (1.28)	3.69 (1.19)	3.54 (1.30)		3.03 (1.38)		3.47 (1.28)	
親が子どもの発達を広い視野から捉えられるようになる	1.87 (.87)	2.06 (.93)	2.53 (1.08)	1.73 (.67)		1.88 (.88)		2.09 (.98)	

註) () 内は標準偏差

保育所においては、育児相談(86/ 75%)、延長保育(81/ 71%)、園舎・園庭の開放(69/ 61%)、未就学児への育児サービス(36/ 32%)、一時保育(32/ 28%)の順であった。

2: 子育て支援活動の有無と幼稚園・保育所における各子育て支援の親への影響に関する認識の違い

子育て支援活動の有無と幼稚園・保育所における、各子育て支援の親への効果の認識に違いがあるのか、また、あるのならどのような違いがあるのか、を明らかにするため、各子育て支援の影響に関する項目の評定に対して2要因(各子育て支援活動有り・無し; 幼稚園・保育所)分散分析を行った。主効果、交互作用の確認されたものに関しては、順次多重比較(Tukey法)を行った。育児相談、子育てサークルに関しては、幼稚園における活動数が少ないため、活動の有無の主効果、交互作用に関する結果の解釈は、可能性の示唆のみに留めた。

また、子育て情報の提供、一時保育、夜間保育に関しては、実際に活動を行っている園がほとんど見られなかったため、これらの活動に関しては、幼稚園・保育所別のt検定を行った。さらに、その他に関しては、具体的な子育て支援活動が明確ではなかった点、回答数が極めて少なかった点を考慮し、分析の対象外とした。各カテゴリの項目ごとの平均値をTable2に示した。

まず、園舎・園庭の開放に関しては「親同士の交流を促進する」の項目で幼稚園・保育所別の主効果が確認され($F(1,142)=9.63, p<.01$)、保育所よりも幼稚園において、園舎・園庭を開放することで親同士の交流を促進する効果がある、と認識していた。また、「親の子育ての悩みを解消する」、「親の育児能力・技術が向上する」、「親の自立を積極的に支える」、「親が子どもの発達を広い視野から捉えられるようになる」の項目で、活動の有無の主効果に有意差もしくは有意傾向が確認され(それぞれ $F(1,143)=3.61, p<.10$; $F(1,142)=3.38, p<.10$; $F(1,142)=9.61, p<.01$; $F(1,143)=10.06, p<.010$)、全ての項目において、有り群の方が無し群よりも、園舎・園庭の開放が、子育ての悩みを解消、親の育児のスキル向上や自立、発達の視野の拡大に効果がある、と認識していた。さらに、「親の子育ての悩みを解消する」(Figure1)、「親が子どもの発達を広い視野から捉えられる」に関しては、活動の有無と幼稚園・保育所別の交互作用に有意傾向が確認された(それぞれ $F(1,146)=3.11, p<.10$; $F(1,146)=3.49, p<.10$)。下位検定の結果、「親の子育ての悩みを解消する」、「親が子どもの発達を広い視野から捉えられる」、の双方とも、保育所では差が見られなかったが、幼稚園においては単純主効果が有意であり(それぞれ $t(41)=2.53, p<.05$; $t(42)=2.81, p<.01$)、無し群よりも有

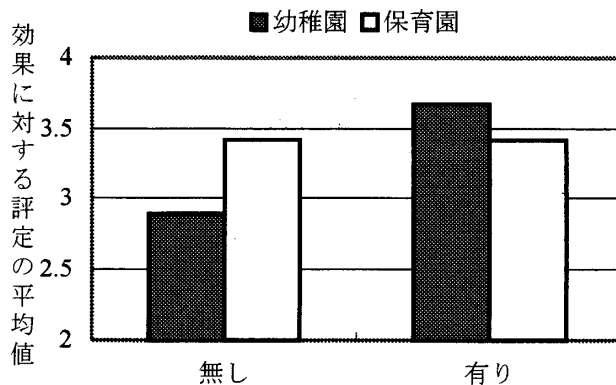


Figure 1:活動の有無と幼稚園・保育園ごとの園舎・園庭の開放の「親の子育ての悩みを解消する」への効果

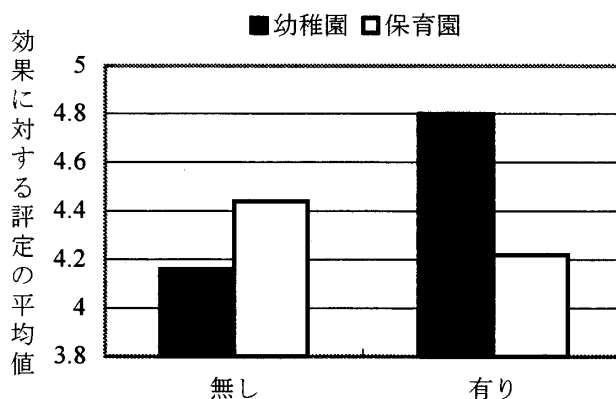


Figure 2:活動の有無と幼稚園・保育園ごとの育児相談の「親の発達への視野の拡大」への効果

り群の方がこれらの活動は子育ての悩みを解消、発達に関する視野の拡大に効果がある、と認識していた。

次に、育児相談においては、「親の自立を積極的に支える」の項目で、活動の有無の主効果に有意傾向が確認され($F(1,139)=3.80, p<.10$)、無し群よりも有り群の方が、各支援の親への効果を認識していた。また、「親が子どもの発達を広い視野から捉えられる」では、活動の有無と幼稚園・保育所別の交互作用が確認された($F(1,145)=5.02, p<.05$)。下位検定の結果、幼稚園において単純主効果が有意であり($t(40)=2.13, p<.05$)、有り群の方が、育児相談の親への効果をより高く認識していた(Figure2)。ただし幼稚園教諭においては活動有りとは回答した者が5名と少ないことから、この活動に関してはさらに確認、検討する必要がある。

子育てサークルなどの支援に関しては、「親が子どもの発達を広い視野から捉えられる」で、活動の有無と幼稚園・保育所別の交互作用に有意傾向が確認された($F(1,139)=2.87, p<.10$)。下位検定の結果、有り群において単純主効果が有意であり($t(31)=2.49, p<.05$)、幼稚

園よりも保育所の方が、子育てサークルは発達への視野の拡大に寄与している、と認識していた(Figure3)。ただし、幼稚園教諭においては、活動有りと回答した者が6名と少ないことから、この活動に関してはさらに確認、検討する必要がある。

未就学児への保育サービスに関しては、「親同士の交流を促進する」、「親の子育ての悩みを解消する」、「親子の遊びやグループ活動が活発になる」、「親が子どもの発達を広い視野から捉えられる」の項目において、活動の有無の主効果に有意差もしくは有意傾向が確認された(それぞれ $F(1,134)=10.60, p<.01$; $F(1,132)=3.59, p<.10$; $F(1,131)=8.33, p<.01$; $F(1,132)=8.80, p<.01$)。下位検定の結果、全ての項目において活動無し群よりも有り群の方が、親同士の交流を促進し、子育ての悩みの解消、親子との遊びや活動の活性化、発達の視野の拡大に効果がある、と認識していた。また、「親同士の交流を促進する」の項目では、幼稚園・保育所別の主効果傾向が確認され($F(1,142)=2.74, p<.10$)、保育所よりも幼稚園の方が、未就学児への保育サービスは親同士の交流を促進する効果がある、と認識していた。

一時保育においては、「親同士の交流を促進する」、「親が子どもの発達を広い視野から捉える事ができる」の項目において幼稚園・保育所別の主効果が有意であり(それぞれ $t(134)=4.80, p<.05$; $t(134)=6.61, p<.05$)、両項目において幼稚園よりも保育所の方が、親に対して効果がある、と認識していた。

延長保育に関しては、「親同士の交流を促進する」の項目において幼稚園・保育所別の主効果傾向が確認され($F(1,136)=3.30, p<.10$)、幼稚園よりも保育所の方が、延長保育を行うことで、親同士の交流を深める効果がある、と認識していた。また、「親の子育ての悩みを解消する」の項目においては、活動の有無の主効果が有意であり($F(1,135)=4.01, p<.05$)、無し群よりも有り群の方が、効果がある、と認識していた。また、「親の育児能力・技術の向上」(Figure4)、「親子の遊びやグループ活動が活発になる」、「親が子どもの発達を広い視野から捉えられるようになる」の3項目で、活動の有無と幼稚園・保育所別の交互作用に有意、有意傾向が確認され(それぞれ $F(1,138)=4.81, p<.05$; $F(1,139)=3.65, p<.10$; $F(1,138)=6.69, p<.05$)、下位検定の結果、全ての項目で、保育所での活動の有無による親への効果の認識に有意差が見られた(それぞれ $t(100)=3.26, p<.01$; $t(100)=2.59, p<.05$; $t(98)=3.54, p<.01$)。すなわち、無し群よりも有り群において、延長保育をすることで、親の育児能力の向上、遊びや活動の活性化、子どもの発達への視野の拡大に効果がある、と認識されていた。

夜間保育に関しては「親の自立を積極的に支える」

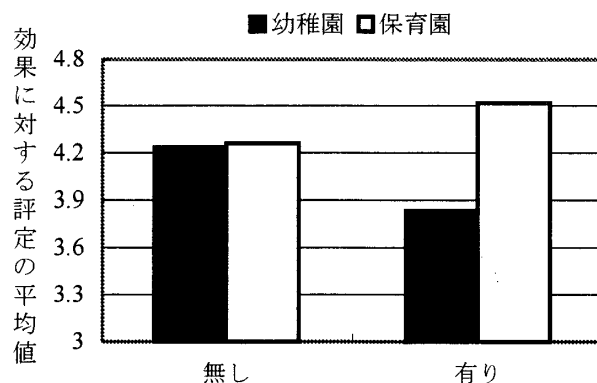


Figure 3:活動の有無と幼稚園・保育園ごとの子育てサークルの「親の発達への視野の拡大」への効果

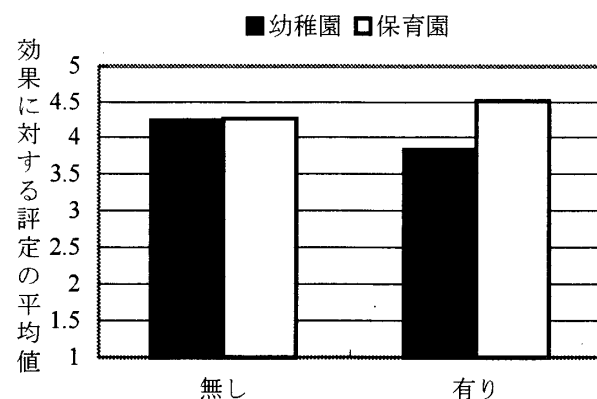


Figure 4:活動の有無と幼稚園・保育園ごとの延長保育の「親の育児能力・技術の向上」への効果

の項目で有意傾向が確認され($t(134)=1.77, p<.10$)、幼稚園よりも保育所の方が、夜間保育は親の自立を積極的に支えることに効果がある、と認識していた。

考察

1: 子育て支援活動状況

全体的に最も行われている子育て支援の活動は延長保育であり、全体の66%であった。この結果は、養育者、主に母親の社会進出の増加や就業形態の多様化に伴うニーズの反映であり、母親の就業と子育ての両立の為に重要な支援活動であると考えられる。園舎・園庭の開放に関しては、幼稚園・保育所とも、活発に行われている支援であった。この支援は、園が時間や手間をかけずとも行える支援形態ではあるが、親と園とが、親と親同士が気安く情報交換できる場として機能する、重要な活動であろうと考えられる。

相対的に、幼稚園よりも保育所において子育て支援活動を活発に行っていた。特に育児相談に関しては、

主に保育所で行われていた活動であった。徳島県では、年少児から年中児を保育所に通わせ、年長児を幼稚園に通わすという習慣がある。この習慣は、未だ二元的に見られがちな、保育所と幼稚園の目的・機能の違いに起因していると考えられる。つまり、子どもが年少、年中児の時には、養育者は育児に関する悩みやストレスを多く抱えがちであり、その養育者のニーズに応えるべく、育児相談を保育所では実施する。他方、年長児の多い幼稚園においては、主に幼児教育がその基軸を成しており、養育者のニーズにも就学に関するものが加わってくる。そのため、養育者に対する直接的な子育て支援という面では、保育所と比較して、子育て支援に対する重きが軽くなるのであろう。その結果として、実際の子育て支援活動状況が、保育園よりも活発ではなかったのだと考えられる。

2: 子育て支援活動の有無による、各子育て支援の親への効果に対する認識の違い

園舎・園庭の開放に関しては、「子育ての悩み解消」や「能力・技術の向上」、「親の自立への支援」、「発達視野の拡大」に関して、設置の有無による効果への認識に違いが見られた。間接的な子育て支援活動とも考えられる園舎・園庭の開放は、幼稚園教諭や保育士と、他の親との交流や談話を通して、養育者は子育てに関する悩みが解消され、さらに他の養育者の育児やしつけなどの方法を習得することで育児能力が向上する。これらのことが結果として、「子ども」の様々な発達のパターンを知り、冷静に現在の自分と子どもとの関係について内省することが可能となり、副次的に親の自立や発達の視野を広げる、という機能を果たすこととなったのだと考えられる。このように、園舎・園庭の開放、という間接的な子育て支援活動においても、実際に活動を行ってみると、様々な副次的な機能をも果たし得ることが示唆された。子育て支援とは、親に対する直接的な支援のみならず、親自身が様々な場面や人から情報を得、自ら考え内省する機会を提供することもまた、重要なのであろう。

次に、育児相談、子育てサークルなどの支援は、共に保育・幼児教育の専門家である保育士や幼稚園教諭を交え、直接的に育児に関する悩みの解消を目的に行われている子育て支援活動である。効果への認識が共に、「発達における視野の拡大」に関することから、育児環境がより閉塞的になっており、雑誌や育児書では、発達に関する個人差について十分理解できずにいる、現代の養育者の状況を反映していると考えられる。清水・西田(2000)は、母親の育児ストレス構造について検討しており、その構造の中には、「子どもの発達に対する懸念」が含まれている。このような親に対する支

援では、日頃から自分の子どもと多くの接触があり、専門的な育児や幼児教育の知識を有している保育士や幼稚園教諭から、当該個人に沿った育児相談や、専門家を交えた会を開くことにより、悩みの解消に役立つであろうし、少数ではあるが、実際に効果が認識されている。育児相談や子育てサークルなどの子育て支援活動は、人的・時間などのコストが掛かる。しかし、大きな育児ストレスとなりうる発達に関する懸念を解消している、と認識されているこれらの活動は、養育者の育児に関わるストレスに、ダイレクトに機能する活動であると考えられる。

未就園児への保育サービスに関しては、「親同士の交流」、「子育ての悩みの解消」、「親子の遊びや活動の活性化」、「発達視野の拡大」で、活動の有無の効果が見られた。未就園児への保育サービスとは、就学するまでに、保育所や幼稚園などに通っていない子どもに対して、一時的に保育のサービスを行う活動である。子どもが保育所や幼稚園に通っていない養育者は、同じ年代の子どもを持つ親との交流も少なく、より閉塞的になりがちであることが考えられる。このように考えるなら、未就園児を持つ養育者が、保育サービスを受けることで、多くの情報を得て、悩みの解消や、その後の子育てに反映することができる。そして親子のより密な活動を導く、という機能を果たしていることが示唆された。また、地域ぐるみの子育てが難しくなってきた昨今、サービスを望む養育者に、例え子どもを常時預けていない園であっても、その門戸を開放することは、地域ぐるみの子育ての契機ともなる。

延長保育に関しては、「子育ての悩みの解消」において設置の有無による効果への認識に違いが見られた。養育者が共に働いている家庭においては、定時の閉園時刻に仕事を終えることができない、ということ自体が、子育てにおける悩みとなっていたと考えられる。清水ら(2000)の研究においても、育児ストレスの各構造は、養育者、特に母親の就業形態によって異なっている。家庭の在り方が多様化しているため、このような園の柔軟な対応は今後必要となってくるであろう。

3: 幼稚園・保育所における各子育て支援の親への効果に対する認識

幼稚園と保育所はその基本理念を、全ての幼児が家庭の社会的、経済的状况によって教育上差別されないで、均しく心身の健やかな発達を保障しようとする教育の機会均等を目指すことを基軸としている。しかしその詳細に関しては、幼稚園は教育、保育所は福祉の旗を掲げており、それに伴い目的・機能を異としている。先の幼保一元化論の中で、以前は保育所の幼稚園化を、そして近年の延長保育の実施などを代表とする

幼稚園の保育化を目指す論議を通して、結局、幼児教育を推奨し、就園希望、保育ニーズに柔軟に対応できるよう、それぞれの制度の枠組みの中で整備・充実を図る、という態を成すことで、収斂の兆しを見せている。本研究における、幼稚園・保育所を目指す子育て支援活動、効果の認識の差異には、根底にある目的・機能の差異が影響していることが考えられる。さらに、徳島県では年齢によって、就園形態を異とさせるといふ、他県では稀に見る習慣がある。年齢によって、養育者の子育てに関する悩みやストレスも変化してくる。それは、年長児になると、さらに就学前の準備として、様々な能力や行動が求められるようになるからである。養育者自身の悩みやストレスも、この時期になると育児や発達とまた異なった、就学に関することもさらに加わってくるのが考えられる。これらのことを踏まえ、以降の考察を行っていく。

まず、園舎・園庭の開放、未就園児への保育サービスに関しては共に、「親同士の交流を促進する」の項目で、保育所よりも幼稚園において、これらの育児支援の親に対する効果が認識されていた。前者、園舎・園庭の開放に関しては、幼稚園において活発に行われていた。この活動は保育所が保育を行っている午後に実施されていると考えられ、その時間が、未就園児へのサービスに当てられていると考えられる。養育者同士の交流を期待し、交流の場を、園舎・園庭を開放することで果たそうとした幼稚園教諭が、この効果をより強く認識したと考えられる。

次に、一時保育では「親同士の交流の促進」、「発達視野の拡大」で、延長保育では「親同士の交流を促進する項目」で、夜間保育では「親の自立支援」に関して、幼稚園よりも保育所の方が、これらの活動の親に対する効果を強く認識していた。これらの結果は、延長保育の積極的な導入等により、幼稚園が保育所化へ傾倒している傾向にはあるものの、やはり歴史的な基本理念が、これら時間外保育に関して、幼稚園よりも保育所において、活動に重きを置かせている。と同時に、養育者同士の交流を期待し、その場を園舎・園庭を開放することで、その効果を認識していた幼稚園とは異なり、保育園では一時保育や延長保育という方法で、養育者同士の交流の効果を期待し、認識している。これらの支援は、子育てと就業を両立していくために、重要な支援であることは明らかである。そのため効果に対する認識においても、活動に重きを置けば置くほど明確になり、ますます幼稚園と保育所保育者間の認識の格差を広げていることが考えられる。

4: 子育て支援活動の有無と幼稚園・保育所における各子育て支援の親への効果に対する認識

子育て支援活動の有無と幼稚園・保育所における各子育て支援の親への効果に対する認識について検討した結果、園舎・園庭の開放、育児相談、子育てサークルなどの支援、延長保育において、相互作用が確認された。これらの結果は、養育者側のニーズと、それに対する双方の施設の制度の枠内での整備・充実の試みからくる違いであると考えられる。

まず、園舎・園庭の開放においては、「親の子育ての悩みを解消する」、「親が子どもの発達を広い視野から捉えられるようになる」の項目で、育児相談に関しては、「親の自立を積極的に支える」の項目に関して、共に幼稚園において無し群よりも有り群の方がその効果を認識していた。前者、園舎・園庭の開放は、幼稚園全般で重要視されている側面であることが報告されている(浜崎他, 2002)。一方、育児相談に関しては、保育所で活発に行われている活動であり、幼稚園ではまだまだ活動例が少ない。しかしこれらの結果は、これまで保育所が重要視していた機能に、幼稚園も取り組んでおり、幼稚園の保育所化の流れを汲んだ活動の結果であると考えられる。また、「親への自立の支援」となる、との認識においては、子どもが年長児になると、母親の他に仲間へと意識が向けられるようになり、仲間は子どもの世界にとって、重要な要素ともなる。親と子どもとの関係も、徐々に相互に独立的になってきて然るべきでもある。子どもの発達に沿った母親の対応に関して、特に年長児が多い幼稚園において、養育者にこの効果が期待されていたことも考えられた。

子育てサークルなどの支援においては「親が子どもの発達を広い視野から捉えられるようになる」の項目で、実際に活動を行っている園で、幼稚園よりも保育所において、より強くこの効果が認識する傾向が認められた。このことは、保育士が親参加型の子育て支援が、子どもの成長発達の理解に十分機能していると認識していることが推察される。しかし、本研究では子育てサークルでの支援内容についての詳細な調査行われていないので、その活動内容を踏まえ、さらなる検討が必要である。

延長保育に関しては、「親の育児能力・技術が向上する」、「親子の遊びやグループ活動が活発になる」、「親が子どもの発達を広い視野から捉えられるようになる」の項目で、保育所において、無し群よりも有り群において、それらの効果が認識されていた。この活動は、就業している養育者にとっては、両立に必要な不可欠な活動であり、延長保育へのニーズも高い(浜崎他, 2002)。そのため、活動の有無によって、効果に対する認識の格差は大きく広がったのであろうと考えられる。同時に、その効果が、「育児能力や技術の向上」や、「活

動の活性化」,「発達の見野の拡大」,に及ぶという結果は,延長保育という子育て支援が,保育士からは,就業している養育者の時間的サポートを行うという目的の他に,時間的余裕を持つことで得られる,精神的なサポートという機能も果たし得ることが示唆された。

このように,本研究では,保育士・幼稚園教諭の,各子育て支援の親への効果の認識の違いと,活動の有無による認識の違いを取り上げて検討してきた。しかし本研究の結果は,保育士・幼稚園教諭の子育て支援の効果の認識であり,養育者自身の各子育て支援に対する認識ではない。実際に養育者側が必要と感じる子育て支援の在り方や効果と,保育士・幼稚園教諭が必要だと感じている,子育て支援の在り方,育児支援の効果は,同義に捉えることはできない。今後,養育者側の子育て支援の効果についての調査を行ない,本研究の結果と比較検討を行う必要がある。

5: 本研究の要旨

本研究では,幼稚園・保育所ごとに子育て支援の活動状況を調査し,それら各支援の,親に対する効果に対する認識の違いを検討した。分析の結果,園舎・園庭の開放や未就学児への保育サービス,育児相談などは,実際に活動を実施している幼稚園・保育所ほど,親への効果が認識されていた。これらの支援はつまり,

予想以上に親への支援となっており,当該活動の目的としていた機能の他に,付加的な役割も機能していることが考えられた。また,幼稚園・保育所の掲げる基本理念の在り方の違いから,園舎・園庭の開放や未就学児への保育サービス,一時保育,延長保育などの育児支援においては,幼稚園と保育所の保育者は,養育者に異なった側面について期待していることが示唆された。

引用文献

- 岡田正章 1999 少子化と新たな「幼稚園と保育所の関係」について—政府の審議会など・行政象徴の見解・施策の考察を中心として— *保育学研究* 37, 1, 78-89.
- 岡田正章 1982 保育制度の課題 ぎょうせい.
- 清水嘉子・西田公昭 2000 育児ストレス構造の研究 *日本看護研究学会* 23, No5 55-67.
- 浜崎隆司・田村隆宏・岩崎美智子・佐々木宏子・橋川喜美代・塩路晶子 2002 地域に開かれた子育て支援について—徳島県における子育て支援の現状— *幼年教育研究年報*, 24, 79-85.
- 原田正文 2002 子育て支援とNPO 朱鷺書房.